

津市まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証結果（平成29年度末時点）

○基本目標の数値目標

基本目標① 出会い・結婚・出産・子育てしやすい環境づくり

津市に住み、結婚したい、子どもを産みたい、子どもを育てたいと思う人たちの希望がかなう環境づくりを進めます。

数値目標	計画策定時 (H26年度)	目標値 (H31年度)	実績値		
			H27年度	H28年度	H29年度
出生数	2,196人／年	2,200人／年	2,057人／年	2,150人／年	1,990人／年
委員からの意見			今後の方向性（検証結果）		
- 津市の住宅事情は都心部に比べ充実しており、子どもを生まれて育てられる住宅は十分に提供できる。 - 津市の婚姻数の減少の要因を分析し、施策に生かすことが重要。			出生数は緩やかな減少のなかで、一定数値を維持している。出生数減少の要因としては、婚姻数の減少が考えられ、津市は全国平均や三重県平均の状況よりも深刻。津市の総人口も減少しているものの、婚姻数の減少率は総人口の減少率よりも大きく、人口減少そのものが婚姻数減少の要因とは考えにくい。婚姻数の増加は出生数の増加にも繋がることから、今後も出会いの機会の創出や結婚をサポートする施策を継続していくとともに、婚姻数の減少の要因に係る分析を進め、施策に生かすことが重要。 また、20代前半での出生数が大きく減少する一方で40歳から44歳までの出生数の増加が顕著となっていることから、第1子出産への環境づくりの充実と、若年層に向けた正しい医学的知識の普及に係る取組の継続が重要である。		

基本目標② 産業振興、企業立地等による安定した雇用の創出・拡大

津市で家庭を持ち、安定した暮らしをしたいという人の希望をかなえるために必要となる雇用の創出・拡大を図ります。

数値目標	計画策定時 (H26年度)	目標値 (H31年度)	実績値		
			H27年度	H28年度	H29年度
従業員数 (雇用保険被保険者数)	84,133人／年	86,000人／年	86,473人／年	89,057人／年	91,521人／年
委員からの意見			今後の方向性（検証結果）		
- 学生やU・I・Jターン就職希望者は複数の企業等の情報を比較し、最終的な就職先を選ぶことになるため、県、近隣自治体、職業安定所、商工会議所などの関係機関との連携を強化し、それぞれの情報を共有・一元化するなど、学生や就職希望者が求めるより多くの情報を入手できるよう広い視点で検討することが重要。 - 企業の情報として、産休・育休等の就労規則や企業理念等も重要であるため、企業側も魅力的な情報発信に努めるよう行政からの働きかけも必要。			近年の緩やかな景気回復基調を受け、全国的に雇用は拡大傾向にあり、また、有効求職者数の減少もあって、市内有効求人倍率は全国平均、三重県平均を上回り高い数値となっている。加えて、近年、雇用環境改善に関する法整備が進んでおり、このことから、従業員数（雇用保険被保険者数）の増加に繋がっていると考えられる。 特に女性の雇用保険被保険者数の伸び率が高いことから、妊娠・出産後も継続して働くことができるようこども園や放課後児童クラブなどの施設整備や子育てサービスの充実を通じた女性の働きやすい環境整備を進めていくことが重要。 企業の情報提供のあり方についても検討が必要。		

基本目標③ 定住・還流・移住などによる新たなひとの流れの創出

津市への定住や移住、交流といった観点からの、津市への新たなひとの流れの創出を図ります。

数値目標	計画策定時 (H26年度)	目標値 (H31年度)	実績値		
			H27年度	H28年度	H29年度
転出超過数 (転出数－転入数)	-432人／年	150人／年	286人／年	-47人／年	-645人／年
委員からの意見			今後の方向性（検証結果）		
- 学校現場においては、授業についていけない外国人の子どもたちが多くいるという状況もあり、そういった部分も含めて、地方創生のなかでも外国人の問題は、今後しっかりと検討していく必要がある。 - 観光面では、新しいものがほしいというよりも、口コミサイトやSNS等を通じて、今あるものをより魅力的に発信していく工夫が必要。 - 宿泊施設が他市町と比較して充実していることもあり、宿泊者数は多いものの、津市が観光の目的地となっていない状況があることから、宿泊者を市内観光へ繋げる取組が必要。			現在、津市は外国人住民の増加を背景とした転入超過の状況にあり、求人数に対し求職者数が少なく、求人・求職のミスマッチが発生している業種を中心に外国人労働者数が年々増加している。人口減少により企業側の人材確保が難しくなるなか、外国人労働者の受入れは不可避であり、国の動向も踏まえ、今後何らかの取組を検討していくことが必要不可欠。 また、年齢別転出・転入数の推移から、若い世代の動きが社会増減に大きく影響していることが明らかであり、今後一層、進学や就職に連動した定住・移住促進に取り組む必要があることに加え、30歳から39歳の世代の転入数については、増加していることから、魅力ある地元企業の積極的な情報発信や企業側とのマッチングなど、就職・転職のタイミングでの転入促進施策も重要。 加えて、スポーツ施設や既存の観光資源、コンベンション施設等をSNSなども効果的に活用し、魅力的に情報発信することで、交流人口の増加を図ることも重要。		

基本目標④ 人と人が繋がった暮らしやすい地域づくり

地域に暮らす人たちが明るい将来を思い描き、互いに支え合い、笑顔があふれる地域づくりを進めます。

数値目標	計画策定時 (H26年度)	目標値 (H31年度)	実績値		
			H27年度	H28年度	H29年度
市政アンケートで「津市は住みやすい」と回答した人の割合	80.1%	90.0%	-	79.6%	-
委員からの意見			今後の方向性（検証結果）		
住みやすさや住む環境については、働く場所があるということ、距離はあっても通勤経路がきちんと確保されていることが重要。			市政アンケートは平成29年度に実施しておらず、実績値はないが、平成28年10月に行った津市総合計画策定のための市民意識調査において、津市や市政の現状に対し、約8割の市民が愛着や満足度を感じているという結果が出ている。また、市政アンケートの中で「地域での人間関係が良い」という項目は、全項目中の2番目に高い評価となっている。人と人との繋がりは地域づくりに不可欠な要素であり、この評価をさらに伸ばしていくためにも各施策を着実に推進することが重要。		